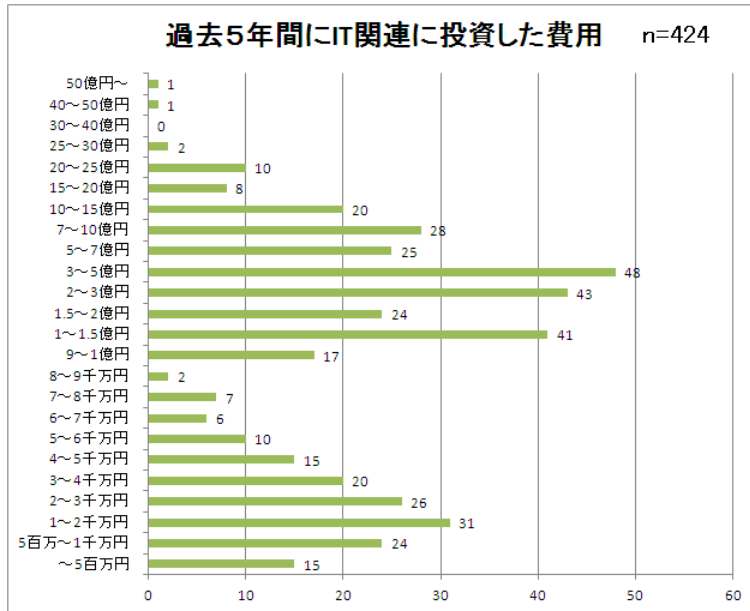


IT時代における病院の取り組みに関するアンケート調査 中間報告

中小病院委員会 委員長 土井章弘

1) 医療機関の規模別にみた IT化への取り組みについて 過去5年間に IT導入に投資した費用



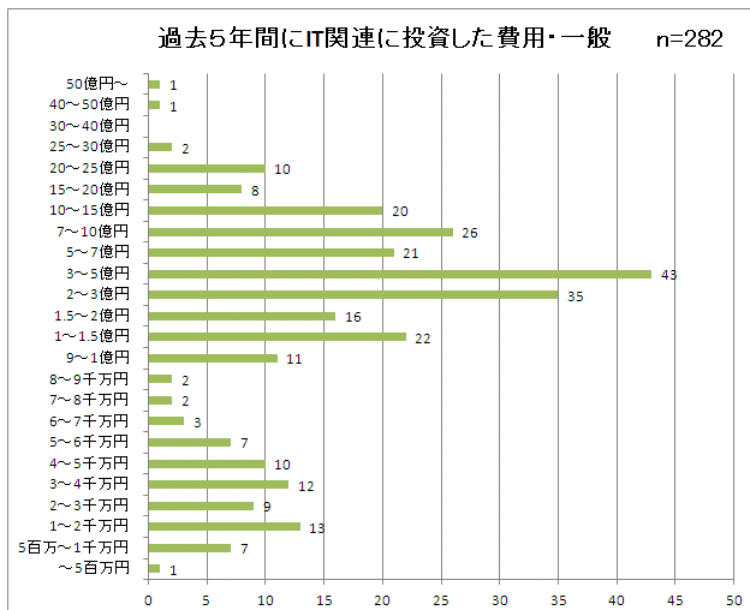
病院種別では、

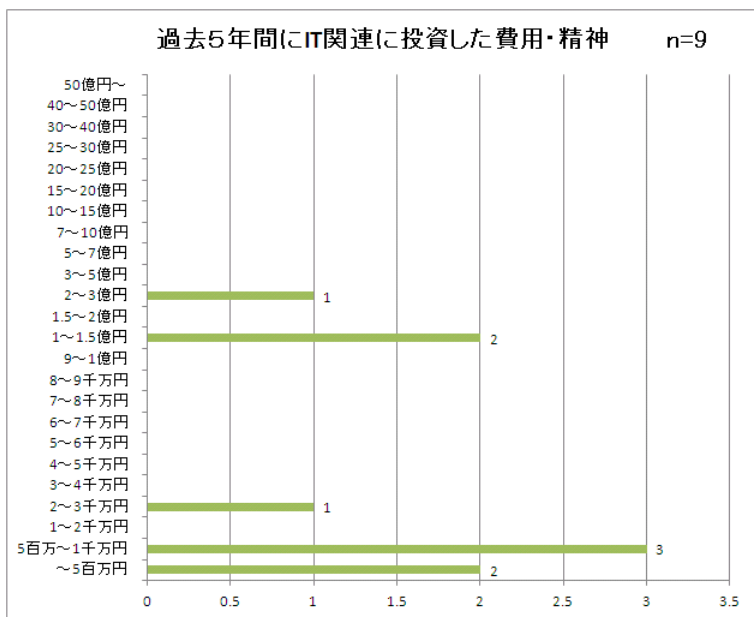
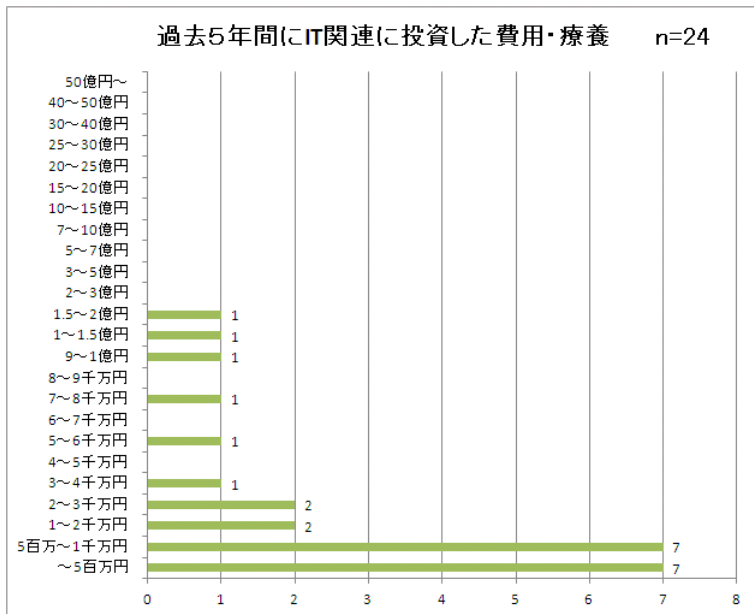
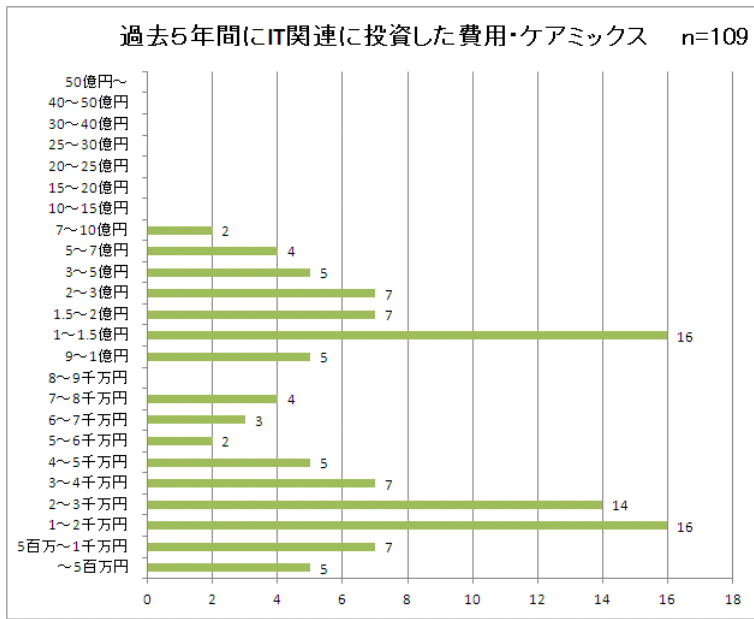
一般では5億円前後と4千万円前後に分かれている。

ケアミックスでは1.5億円前後と2千万円前後に分布している。

療養・精神は1千万円以下が多い。

病院種別では一般病院の投資額が多い。またケア・ミックスでは、2つの分布に分かれており、規模による差ではないかと思う。



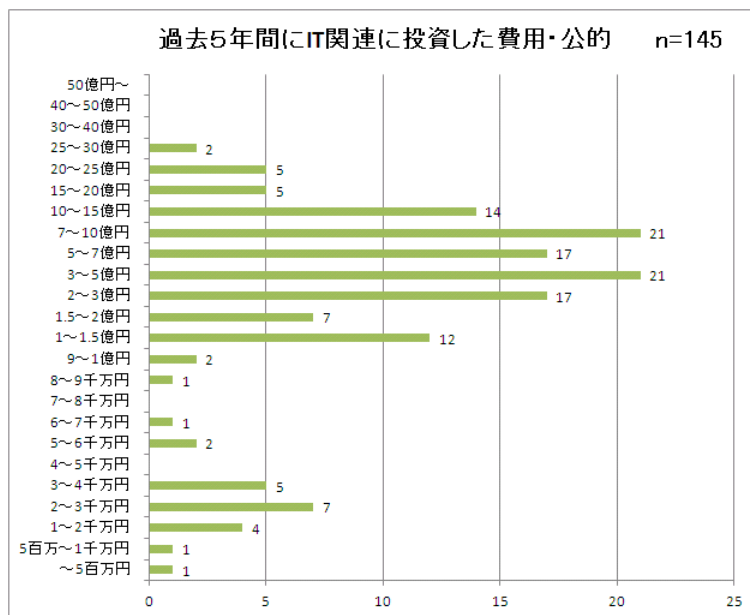
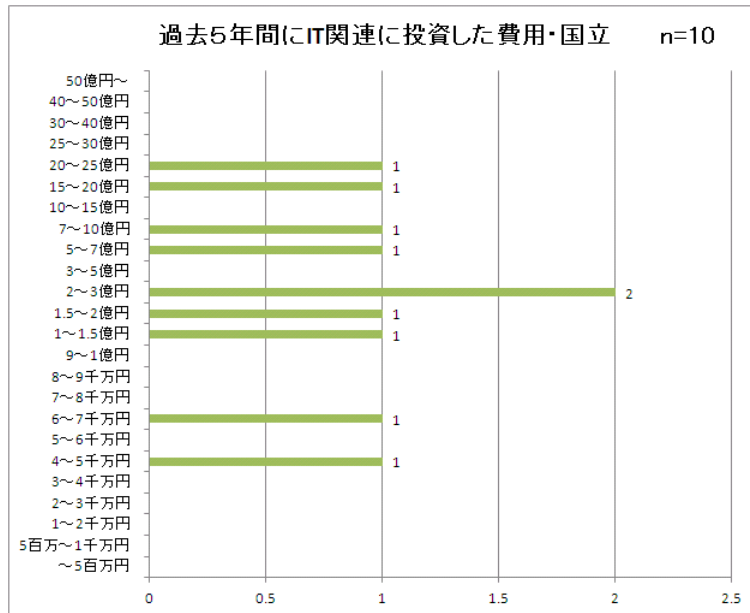


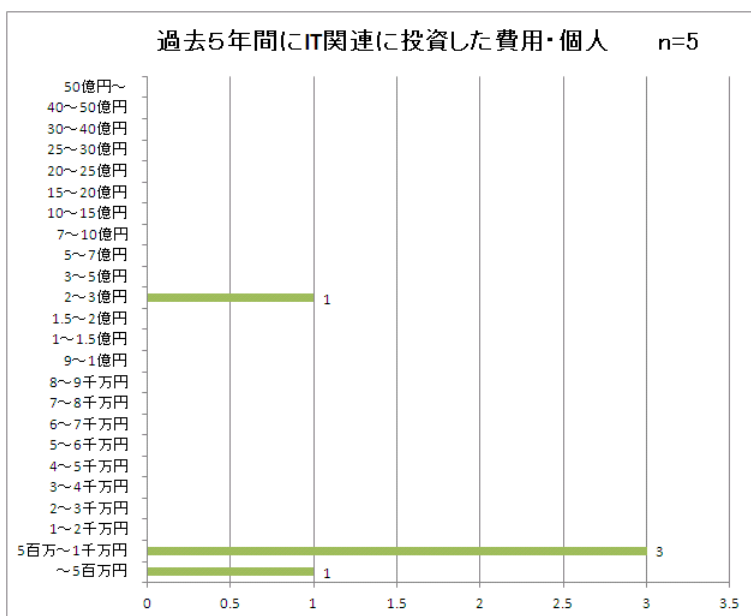
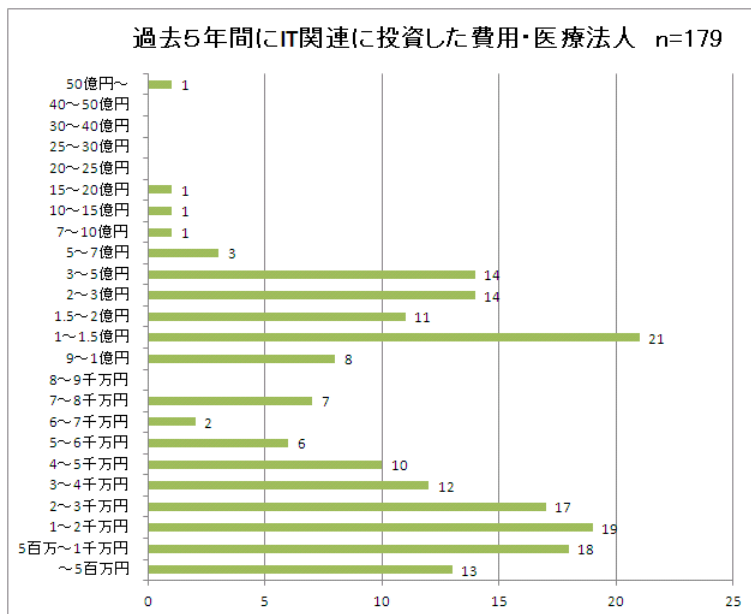
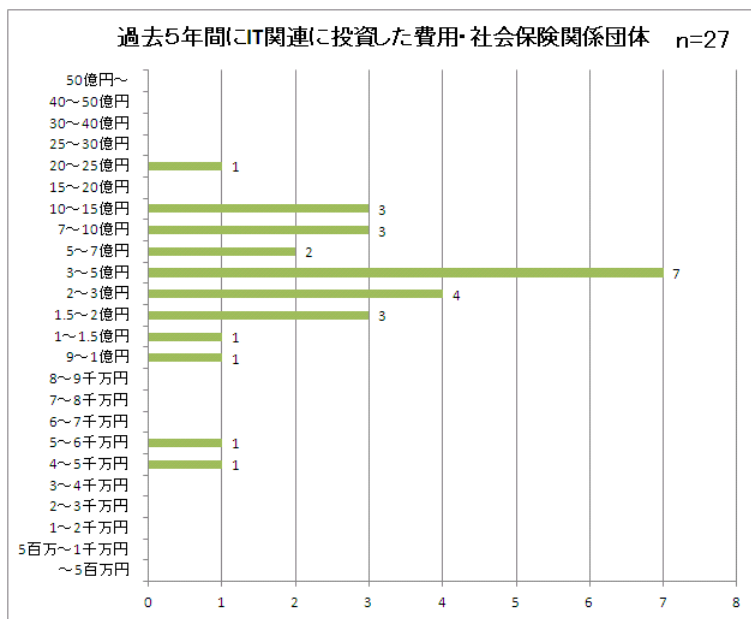
開設者別では

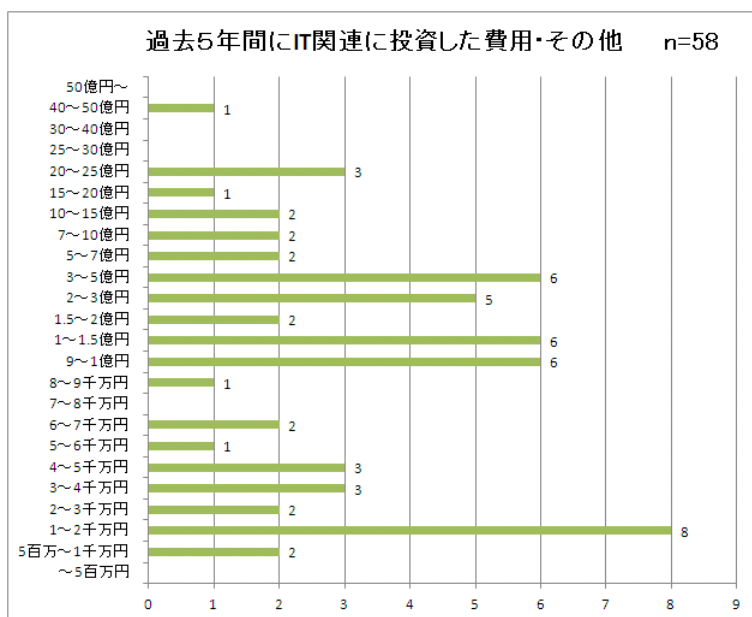
国が 4000 万円から 20 億円前後とばらつきがある。公的では 10 億円前後に分布されている。社会保険団体では、5 億円前後に分布している。

医療法人では、同じくばらつきがあるが、2～3 億円前後と 2 千万円前後に多い。

一番大きな原因は、規模である。医療法人や個人病院は比較的小規模です。資金面の調達の問題もあるのではないかと。







病床規模別では

20 - 99床 1 - 2千万円前後に分布

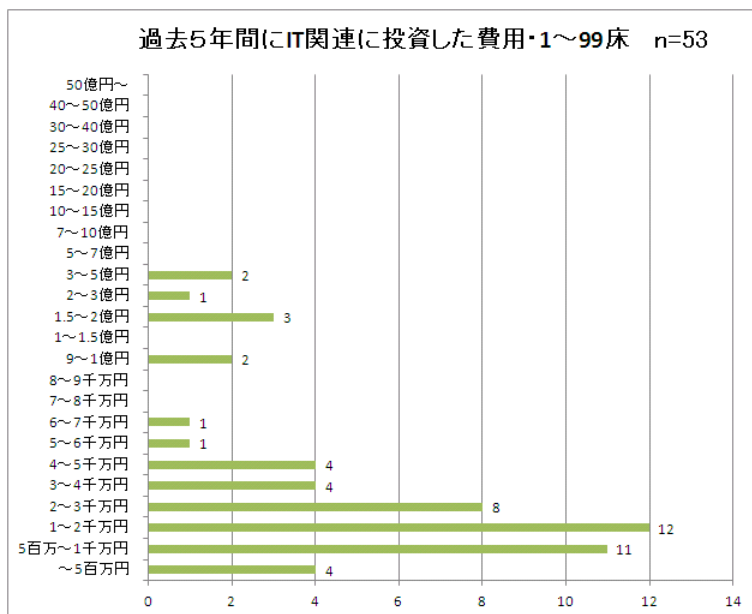
100 - 199床 2億円程度に分布

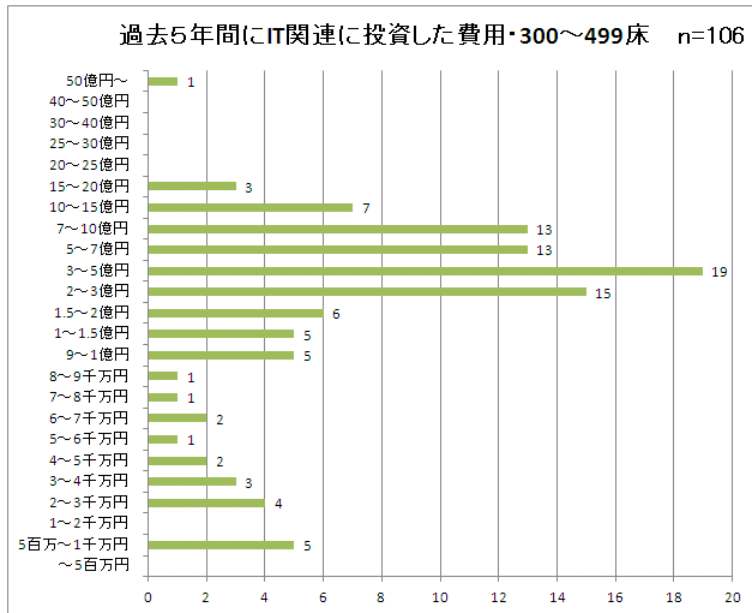
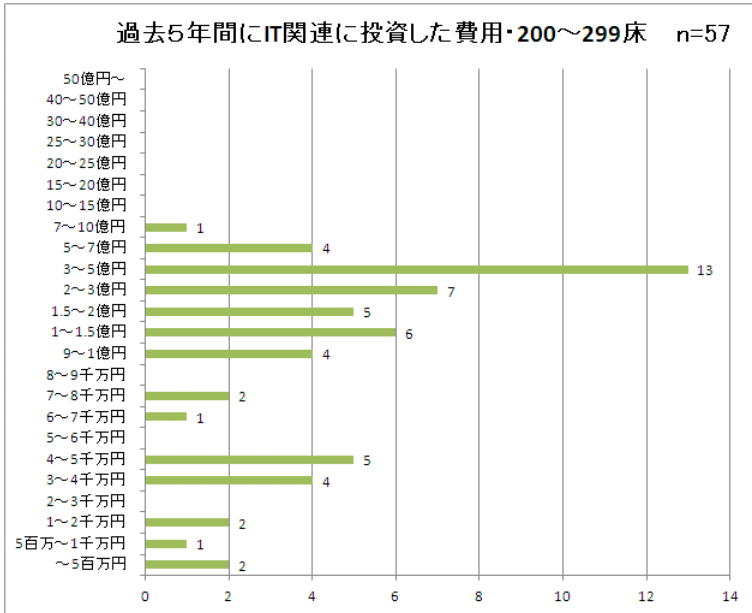
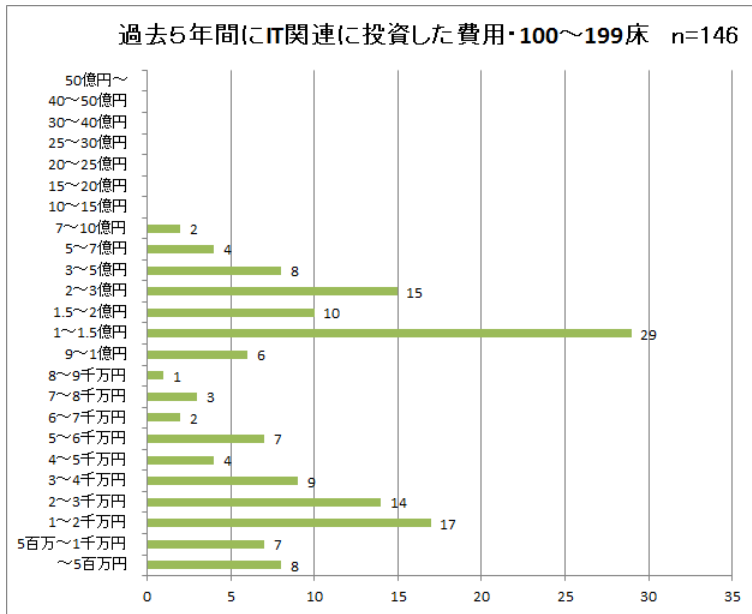
200 - 299床 3 - 5億円前後に多く分布

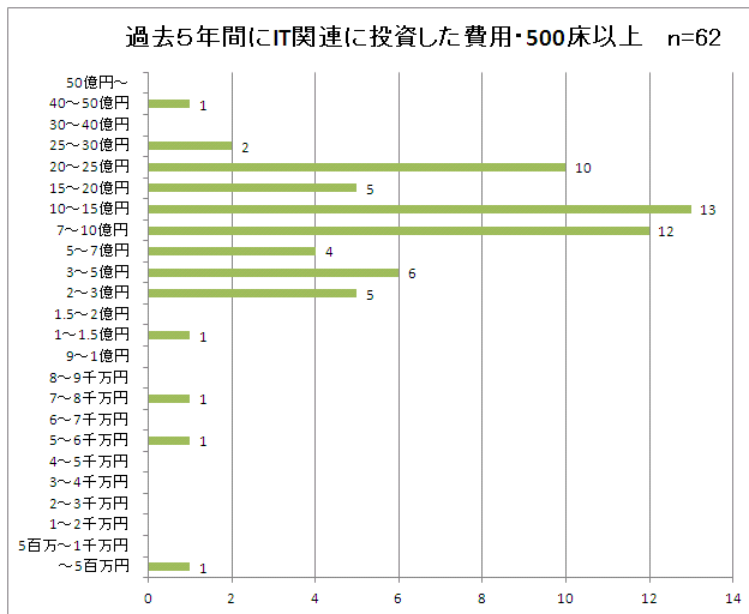
300 - 400床 3 - 5億円前後、20億円、50億円を超えている

500床以上 10 - 15億円前後に分布している

規模によって投資額は高額になっている。



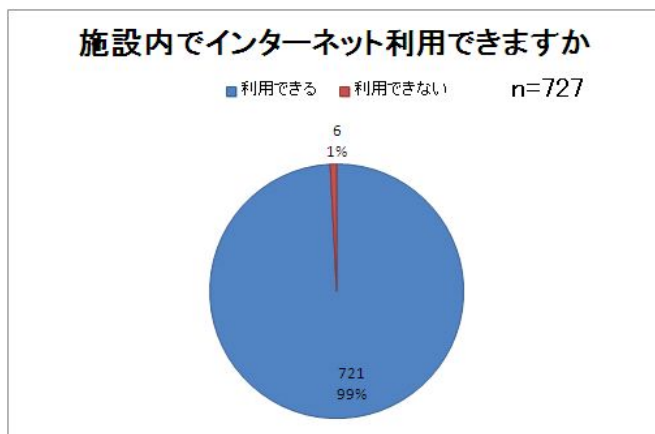


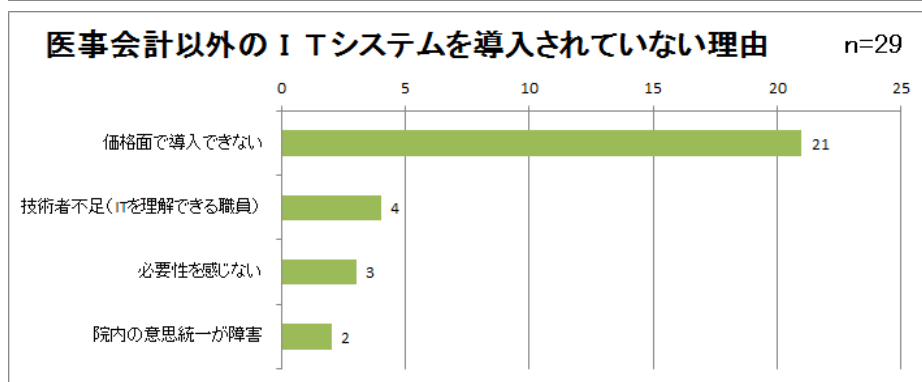
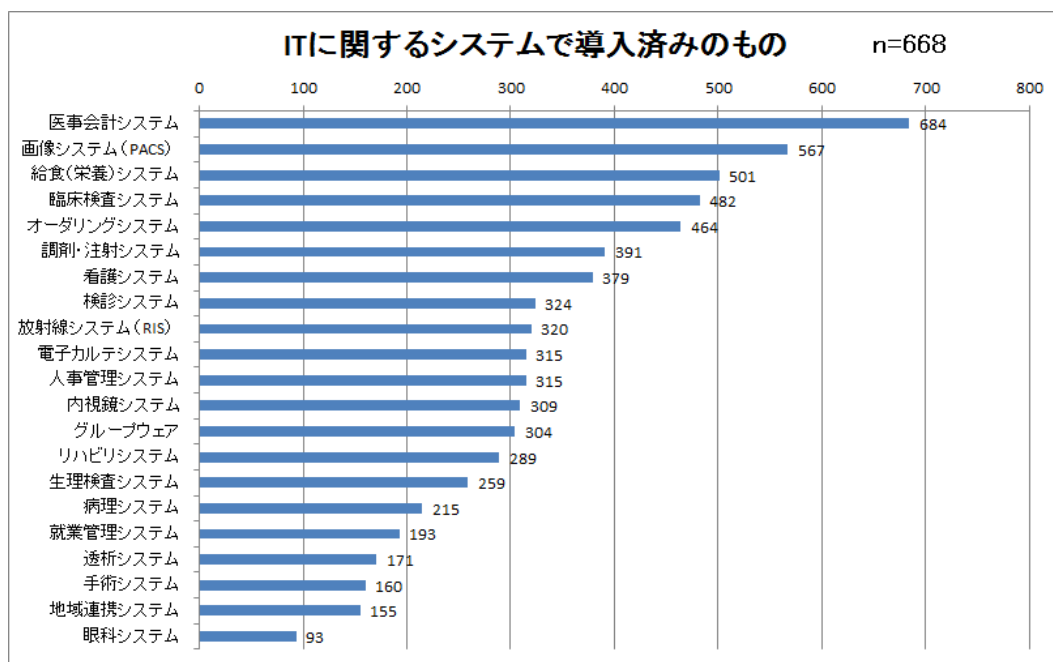


2) 現在のシステムの導入状況、今後検討予定のシステムについて

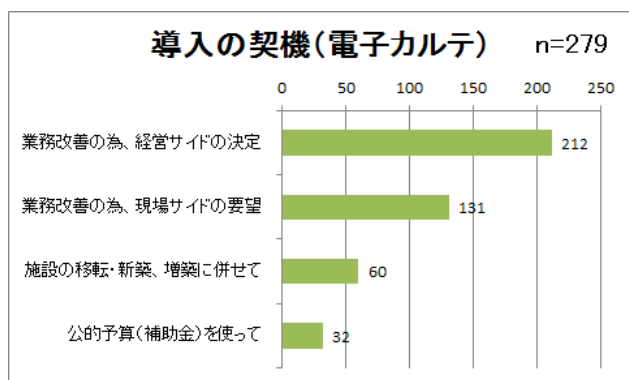
システムの導入状況、導入目的、IT投資状況について

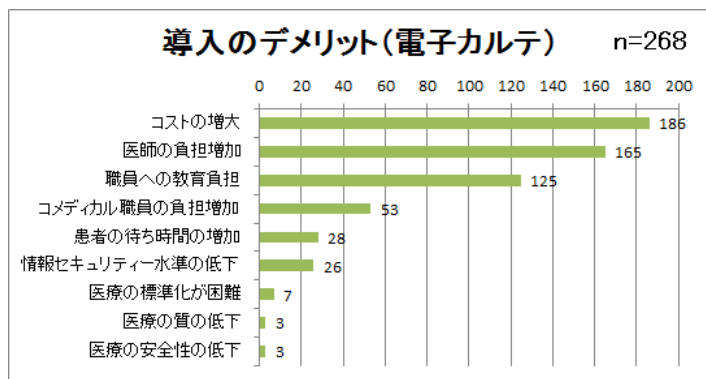
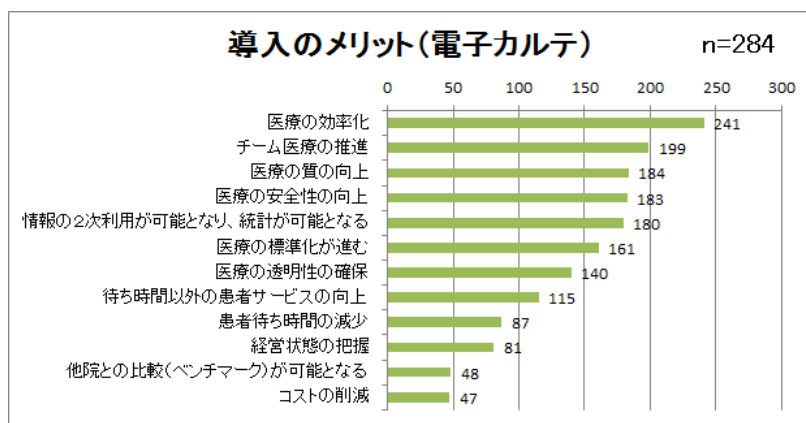
* 施設内のインターネットの利用環境は99%で整備されている。システム導入済のものは、医事会計システム、画像システム、栄養システム、臨床検査システム、オーダーリングシステム、調剤、注射システムと順に少なくなる。医事会計システム以外の導入をしていない病院が多い。理由の第一は、200床未満でも200床以上でも、価格面である。ついで、200床未満の病院では「院内での導入に対する意志の統一が難しい」となっている。200床以上では技術者(SEのようなITを理解する人)について「必要性を感じない」が続く。





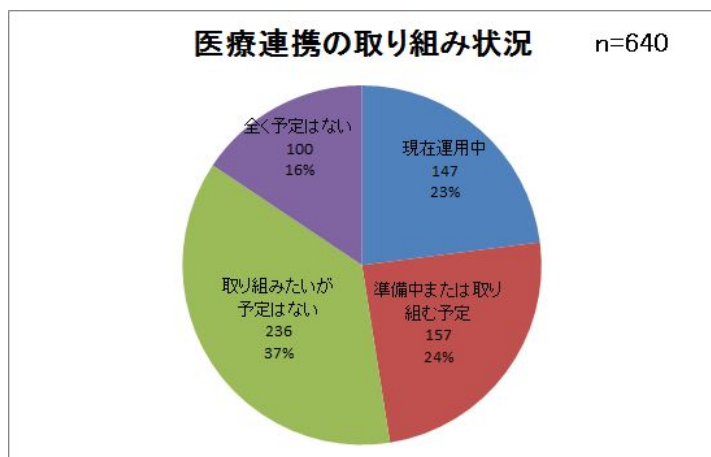
* 導入の契機（電子カルテ）では「業務改善のため」「経営サイドの決定」「業務改善の為、現場決定」が多い。導入のメリットに関しては「医療の効率化」「チーム医療の推進」「医療の質の向上」と続くが「患者の待ち時間以外の患者サービスの向上」「コストの削減」についてはメリットを感じていない。一方、導入のデメリットは「コスト増大」「医師の負担増」「職員への教育負担」が続く。「導入に関しては必要性を認めながらも、投資に比してデメリットを感じている病院が多い。





3) 医療機関のネットワーク連携についての意識調査

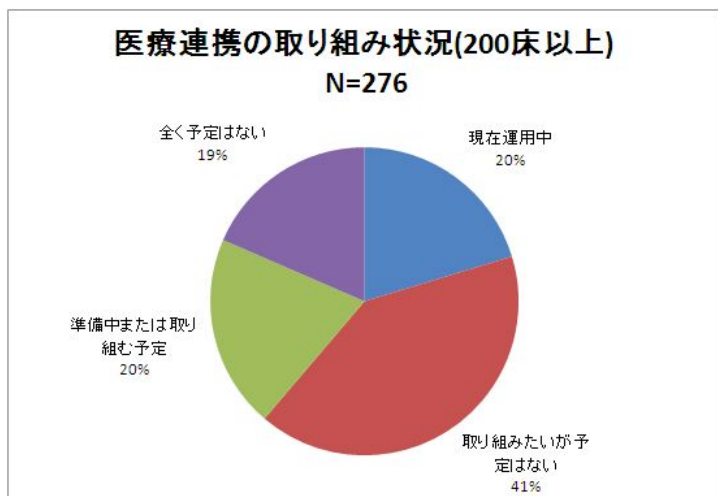
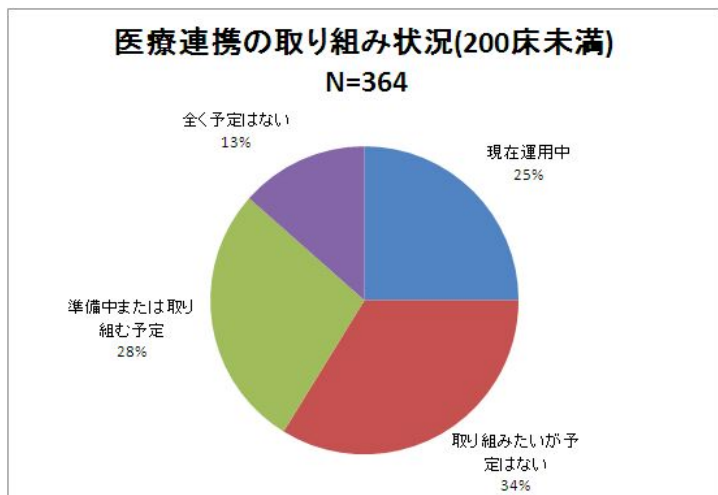
ネットワークの取り組み状況は「現在運用中」23%、「準備中または取り組む予定」24%、と47%が運用しているか運用予定である。「取り組みたいが予定がない」37%、「まったく予定がない」16%であった。



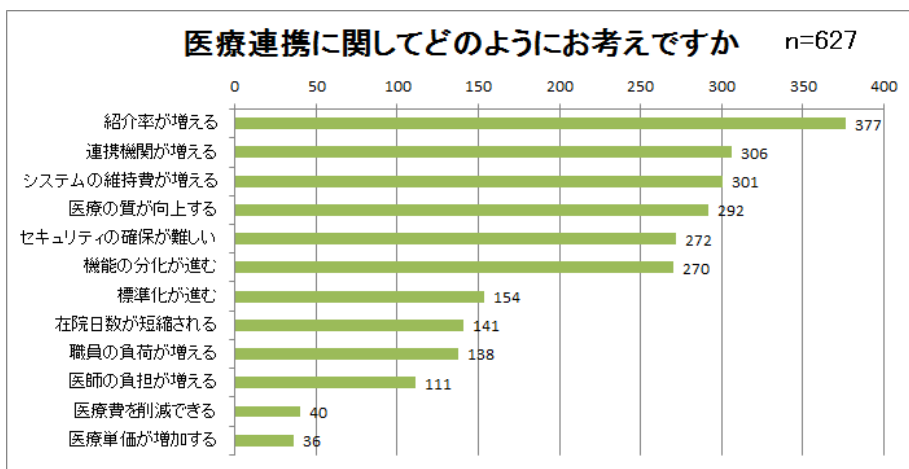
病床規模別では、

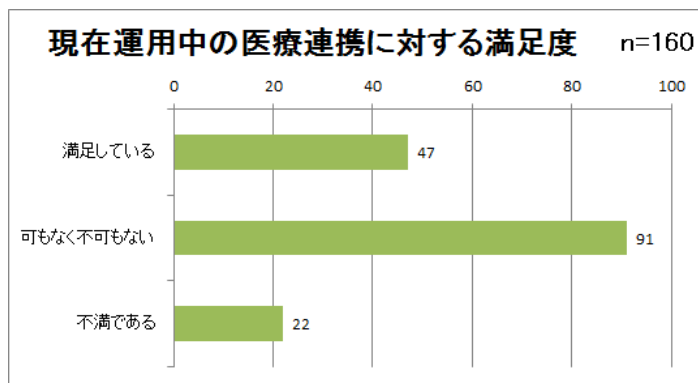
200床未満:「現在運用中」25%、「準備中または取り組む予定」28%と53%が運用しているか、運用予定である。「取り組みたいが予定がない」34%、「全く予定がない」13%の47%予定がないという結果であった。

200床以上:「現在運用中」20%、「準備中または取り組む予定」20%と40%が運用に積極的である。一方、「取り組みたいが予定はない」41%、「全く予定がない」19%と計60%が予定がないとの結果である。



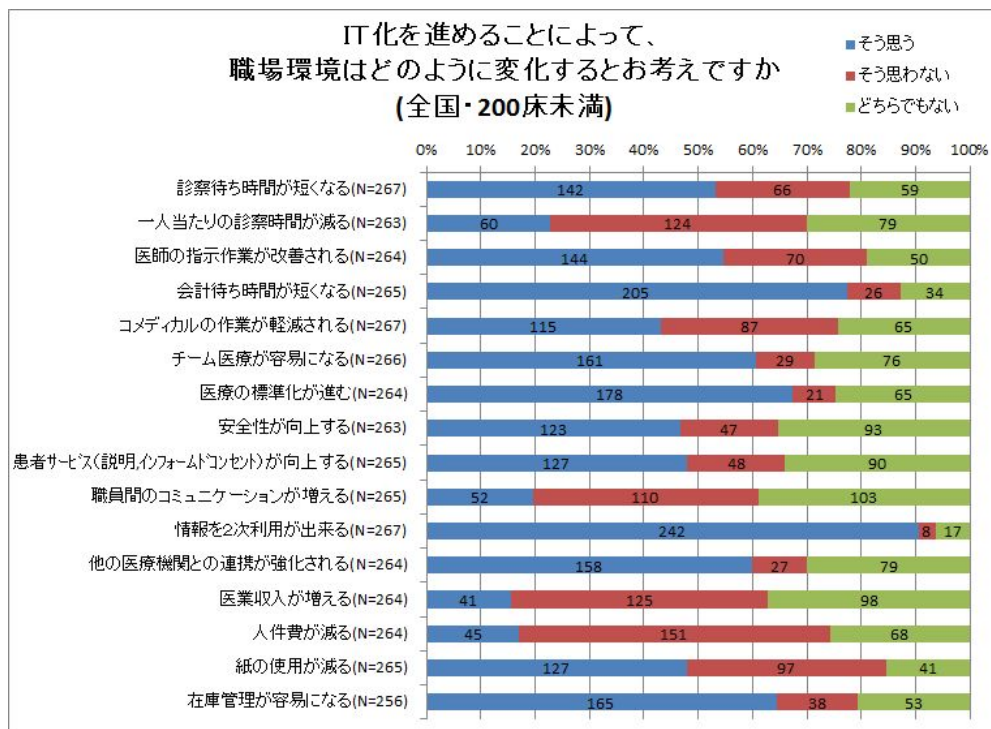
医療連携への考え：選択の多かった項目に、「紹介率が増える」「医療の質が向上する」との一方で「セキュリティの確保が難しい」「システムの維持費が増える」のデメリットへの回答も多い。運用中に病院の連携に対する満足度は「可もなく不可もなく」57%、「満足している」29%、「不満である」14%と実用はこれからとの印象をうけた。

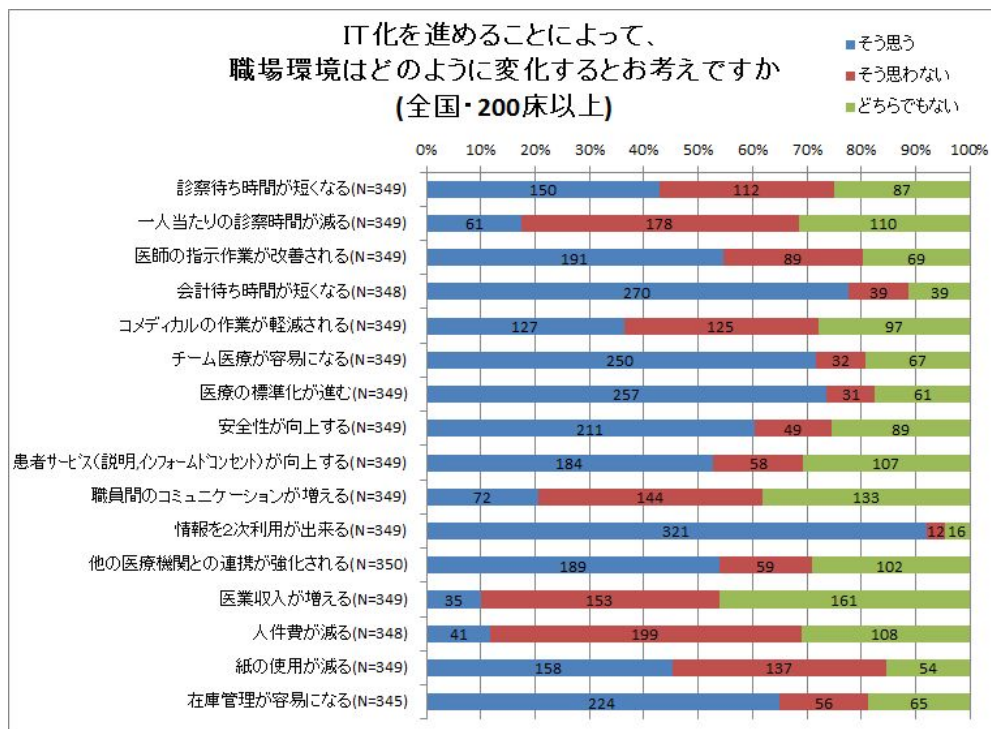




4) IT がもたらす医療への影響、又は想定される職場環境の変化について

IT 化を推進することによって、職場環境の変化は200床以上・以下に関わらず、「情報の二次利用ができる」「待ち時間が短くなる」「医療の標準化がすすむ」「チーム医療が容易になる」という意見と、一方「一人あたりの診療時間が減らない」「職員間のコミュニケーションが増えない」「医療収入は増えない」「人件費は減らない」という回答であった。





5) 総括

医療現場において IT の活用は、なくてはならないものになりつつある。また、中小病院にあっては、院内の意志統一がされにくい、200床以上では、SE などの技術者不足との意見もある。普及に当たっては公的補助も必要であろう。導入のメリット・デメリットがあるが、医療の効率化、チーム医療の推進、外部との医療・福祉連携には欠かせないものになりつつある。IT 化を推進することによって、職場環境の変化は 200床以上・以下に関わらず「情報の二次利用ができる」「待ち時間が短くなる」「医療の標準化がすすむ」「チーム医療が容易になる」という意見と、投資コストも問題であるが、普及することで「医業収入が増えない」「人件費が減らない」「一人あたりの診察時間が減らない」などの意見がある。

IT 活用は万能ではなく、現場において医師事務補助者の増員など工夫も必要である。この調査によって、日本の電子カルテの普及の現況や、問題点を浮き彫りにできたと思う。この調査に参加頂きました病院の各位と、データを分析していただいた分析室の皆様、中小病院委員の皆様から感謝いたします。

IT時代における病院の取り組みに 関するアンケート調査

2010年度データ

病床数	回答数	回答率	売上 平均	IT投資 (5年以内)	IT 投資率	黒字・赤字
1-99床	115	45.2%	(約)11億	(約)0.5億	(約)0.9%	63%・37%
100-199床	255		(約)24億	(約)1.3億	(約)1.1%	70%・30%
200-299床	122	54.8%	(約)40億	(約)2.3億	(約)1.1%	69%・31%
300-499床	207		(約)73億	(約)4.9億	(約)1.3%	67%・33%
500床以上	119		(約)123億	(約)12億	(約)1.9%	77%・23%

IT投資率：IT投資(5年以内)÷売上平均×5

売上・IT投資額について、アンケートの内容上、結果の平均値から算出